

認知症語る動画サイト

認知症の本人と介護家族、合計42人が語る体験談を動画などで見ることが出来るウェブサイト「認知症の語りデータベース」がオープンした。語り手の姿や声をリアルに感じながら認知症を知ってもらう取り組みだ。

「うーん、どういう言葉がいいかなあ……、急に自分自身が自分でないような感じ」

大分市の足立昭一さん（サイトでは匿名）は若年性認知症の症状の始まりを動画でこう語る。撮影時は61歳。診断から4年たったい

本人・家族、リアルに

た。診断時の心境、現在の日々の過ごし方などを時折つかえながらも、はっきりとした口調で語っている。

このデータベースは富山大学大学院の竹内登美子教授（老年看護学）の研究班が作った。NPO法人「健康と病いの語りデイペックス・ジャパン」（東京都）が運営するサイト（<http://www.dip.ex-j.org>）で7月に公開した。このサイトは、病気になった人や家族が体験者の「語り」を通し、病気に向かう勇気や知識を持てる

よう支援するもの。すでに「乳がん」「前立腺がん」の語りがある。いま掲載しているのは本人7人と家族35人。地域や年齢、認知症の種類などができるだけ多様になるようにした。

インタビューを1〜4分の動画と文章に編集。「診断されたときの気持ち」「病院にかかる」など状況別に分類した。医師らの監修も受けた。語り手は匿名で、顔を出したくない人は音声などで参加した。竹内教授は「『語り』から、認知症の人の気持ちや様子、家族が困ったときにどう工夫したかなどがリアルにわかると思う」と話している。

（石井暖子）